

#### (6) 会計学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会(委員長:岸田賢治、名古屋学院大学)は、20年6月、8月、10月、21年1月、3月の計5回開催した。委員会では学士力の検討を行うとともに、絵に書いた餅とならないようコア・カリキュラムにもとづく試験問題の事例研究を進めた。まず、学士力の到達目標としては、専門職業人に求められる会計情報の作成力に目標を置くのではなく、社会人一般に求められる会計情報の利用者として財務諸表を読みこなす能力とした。そのためには、会計学の見方・考え方の基礎、バランスのとれた会計思考・判断による問題発見力、会計情報の真実性や有用性を見極め、問題解決に向けた判断ができる力、いわゆる「会計マインド」を意識した能力として整理し、インターネットで会計学担当教員(サイバーFD研究員)186名に意見を求めたところ、21名からの「理論と現実のバランスを考えた教育、社会人に必要な常識に止どめる、達成度の測定方法が問題」などをの意見を踏まえ、見直しを行い、以下の通り中間的に取り纏めた。

#### <会計学教育における学士力>

1. 会計情報の特徴や作成プロセスが理解できる。
2. 組織活動の財やサービスを計数的に測定し、伝達できる。
3. 組織の経済活動の実態を会計情報として体系的に把握し、問題発見・解決のために利用できる。
4. 会計情報の有用性を理解し、経済的意思決定ができる。

次いで、12月よりにかけて共通の基礎能力を含めた詳細な学士力の検討をおこない、コア・カリキュラムをベースとして会計学入門、財務会計、管理会計、会計情報システムの4分野における授業の理解度チェックのためのサンプル問題を作成し、これをもとに到達能力の測定手段を検討することになった。